

関東学院中学校・二〇二三年度入学試験問題

# 国語

(一期A)

・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

時間 五〇分



□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

伊能忠敬の一行は、幕府の命を受けて蝦夷地(北海道)へ測量の旅に出た。途中で平次は疲労から足を滑らせ転んでしまい、背負っていた測量記録を池に落としてしまう。貴重な記録が濡れて一部読めなくなってしまう、平次は計算したり予備の記録を使ったりして穴うめをした。

その夜、忠敬はひどく機嫌が悪そうだった。普段からいかめしい表情をしているが、A 輪をかけて眉間のしわが深くなり、口もとに力が入っている。

宿の座敷で、味気ない食事が終わると、忠敬が一同を引きとめて切り出した。

「おまえたちに聞きたいことがある」

氷のように張りつめた声だった。平次はびくりとして顔をあげた。

「記録を写したのはだれだ」

明らかに怒っている。平次はとっさに返事ができなかつた。目を合わせられず、うつむいてしまう。

「読みとれない数字を勝手に書きこむなど、言語 I だ。計算で求めた数字を当てはめるなら、実際に測量する意味などない。

何のために歩いてきたと思っているのだ」

「……」

無言の衝撃につらぬかれて、平次の顔から血の気が引いた。①ひざの上で握りしめたこぶしが白くなって、血管が浮きあがっている。

どうやら、大変なまちがいをしてしまったようだ。空白で残しておけばよかったのか。しかし、それでは失われた記録は永久に戻

らない。これまでの歩測がなかったことになってしまつてはいないか。

②「そのような考えの者を隊に残しておくわけにはいかない」

重々しい声は町奉行の裁きを告げるかのようだった。平次は③身をかたくした。名乗り出てあやまらなければ、と思うが、のどがひりついて、言葉が出ない。

「申し訳ございませぬ！」

秀蔵の声がひびいた。

「平次がしよげていたので、何とかしてやろうと思つて……。全部元通りにしてやりたかつたんです。すみませんでした」

土下座する秀蔵を、忠敬はじろりとにらんだ。

「おまえには学問をする意味を教えたつもりだったが、無駄だったようだな」

「出来の悪い息子ですみません。帰れと言つたら、帰ります」

「では、帰つてもらおう」

Ⅱ 言葉に Ⅲ 言葉である。まるで親子げんかだが、平次は客観的に見られる状況ではない。悪いのは自分で、秀蔵はかば

つてくれているのだ。

しかし、平次は凍りついたままだつた。目はささくれたつた畳に吸いつけられている。耳は親子の会話を聞きながら、頭には入つてこない。口は開くが、舌が動かない。自分が自分でないようだった。

「荷物を整理しておくのだぞ」

言いおいて、忠敬は立ちあがつた。二階の部屋へと引きあげていく。弟子たちがあとにつづいて、秀蔵と平次が残された。

秀蔵がBにじりよつてきて、平次の頭に手をおいた。髪をくしゃくしゃにして笑つ。

「そういうわけだから、あとは任せませぬ」

ようやく④呪縛がとけた。平次は畳に額をすりつけるように頭をさげた。

「ごめんなさい、すみません。おれが悪いんです。あやまつてきますから」

「別にいいよ」

秀蔵は強引に平次の頭をあげさせた。

「もともと蝦夷地になんか行きたくなかつたからな。クマもシカもキツネも、見たくないから」

「でも、おれのために、そんな……」

平次は胸の奥が熱くなつてくるのを感じた。とめるまもなく、涙があふれてくる。ほおを濡らし、あごを濡らして流れ落ちる。

「おまえは親父をさがすんだろ。自分のやるべきことをやれ。おれだって、帰つたら好きなことをやるぞ」

「好きなことつて？」

秀蔵はちよつと迷つた。

「測量じゃないことだ。とにかく、おまえは蝦夷地に行け。わかつたな」

もう一度、平次の髪をかきまわして、秀蔵は立ちあがつた。

「あ、待つて」

制止をふりきつて、秀蔵は庭のほうへ出て行つた。

平次はすわりこんだまま、涙をぬぐつていた。どうすればよいのかわからない。秀蔵は本当に帰るつもりなのか。それを望んでいるのだろうか。いや、そんなはずはない。蝦夷地に渡るのを楽しみにしていたではないか。

夕食の膳が片付けられたのにも気づかず、平次は考えこんでいた。

平次は忠敬と向かい合つて正座していた。

やはり、名乗り出ないわけにはいかならないと思つたのだ。秀蔵のやさしさに甘えていては、いつまでたつても子どものままだ。人を犠牲にして、自分の利益を追求したら、必ず後悔する。

行灯の弱々しいあかりが、せまい座敷をほうつと照らしている。忠敬の表情はわからないが、きつと厳しい顔つきにちがいない。「すみませんでした。記録を写したのは私です。秀蔵さんは私をかばってくれただけで、まったく悪くないのです」そう告げると、忠敬はふうつと、息をついた。

「字を見ればわかる」

「ではなぜ……」

秀蔵を叱ったのか。あの場で平次を問いつめればよかったではないか。

しかし、平次は⑤ 問いを飲みこんだ。たずねる資格はないと思った。

忠敬は少し間をおいてから、口を開いた。

「おまえは学問を何と心得ておるのだ」

質問に怒りは感じられなかったが、すぐに答えることはできなかった。出世の手段、と正直に答えたら、見捨てられるに決まっている。

淡い灯りがかすかにゆれた。

「身を IV 手段か」

見抜かれている。仕方なく、平次はうなずいた。

「うむ、わしもかつてはそうであった。おまえと同じような年のころだな」

平次は少し顔をあげた。今はちがうのだろうか。無言の問いに、忠敬が答える。

「今は多少なりとも学問がわかつて、より真剣に向き合っておる。人は、金を持った年寄りが道楽でやっている、と言っがな」

「おれも真剣です」

それだけは言っておきたかった。学問を軽んじているつもりはない。

「その点は否定せんよ。だが、方向がまちがっておる」

忠敬は手厳しく断定した。

「あらかじめ用意した答えを導くために、都合のいい数字をあてはめる。それは学問においては絶対にはやってはならないことだ。予想と観測結果がちがうことなど、いくらでもある。それがどうしてか考える。学問はそこからはじまるのだ」

言いたいことはわかる。でも今回は、それほど重要な問題ではなかったはずだ。どうしても言い訳したくなってしまうが、平次はこらえた。

ところが、忠敬は平次の頭の中を読んでいた。

「一事が万事だよ。小さなことから、ほかに影響がないから……そう言って、いいかげんなことをしていたら、悪いくせがついてしまう。基本をおろそかにせず、コツコツと努力するのが肝心だ。父上から教えられなかったか」

「……教わりました」

平次は自分が恥はずかしくなっていた。失敗を取り返そう、褒ほめてもらおう、とばかり考えて、大切なことを忘れていたのだ。

「読みとれないところは V よかったのですね」

「そうだ。ひとつでもでっちあげたら、記録全体が信用のおけぬものとなってしまっ」

⑥ 自分のしでかしたことをようやく理解して、平次は⑦ 畳に額をすりつけた。

（小前 亮 著『星の旅人』一部改変）

問一——A「輪をかけて」、B「にじりよつて」の言葉の本文中での意味として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A ア いつものように

イ 予想に反して

ウ 今までで見たことがないほど

エ 一層はなはだしくなつて

B ア 突然勢いよく近づいて

イ 顔を顔のそばに近づけて

ウ 膝をついたまま近寄つて

エ ためらいがちにそろそろと近寄つて

問二

I Ⅰに当てはまる言葉をそれぞれ三字以内で答えなさい。

I 言語 I

II 言葉に

III 言葉

IV 身を IV 手段

問三——①「ひざの上で握りしめたこぶしがく浮きあがっている」とありますが、これは平次のどのような状態を表していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 師に指摘されたことによつて自分の犯した間違いを悟り、恐ろしく感じている。

イ 自分は間違つていないという信念があるが、認められず悔しくて力が入っている。

ウ 自分の犯した過ちがばれてしまったのではないかと恐れて、びくびくしている。

エ 師は自分がやったことを知つて問いつめようとしてるのだとわかり、戸惑っている。

問四 — ②「そのような考え」とはどのような考えですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 計算で求めた数字を当てはめるなら測量など意味がないという考え。

イ わからなくなったところは空白で残しておけばいいという考え。

ウ 読み取れなかった数字は、計算するなりして書きこめばいいという考え。

エ わからないところを空白で残しておいては、歩測が無駄になつてしまうという考え。

問五 — ③「身をかたくした」とありますが、それはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 師に隊からの追放を命じられて恐ろしくなつたから。

イ 自分のやつたことを白状する勇気が出ず緊張していたから。

ウ 師の重々しい声が自分を責めているように思えたから。

エ 秀蔵が自分の身代わりになつて罪を申し出たことに驚いたから。

問六——④「呪縛がとけた」とありますが、ここでの「呪縛」とはどのようなことを指していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 秀蔵と父忠敬とのけんかを、ただ茫然と見ているほかにはなかったこと。

イ 本当は自分が申し出てあやまるべきだったのに、恐ろしくなって言い出せなかったこと。

ウ 自分が悪いのに白状できず、言い逃れすることしか考えていなかったこと。

エ 師の怒りで頭が真っ白になってしまい、どうしていいかわからなくなってしまったこと。

問七——⑤「問いを飲みこんだ」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 秀蔵を叱った理由を聞きかかったが、自分は過ちを犯しているので聞くことははばかれると思い、聞けなかったこと。

イ 師に聞きたいことはたくさんあったが、ここで叱られて追い出されなくなかったので聞けなかったということ。

ウ 秀蔵を叱った理由を聞いてしまうことで、父子の仲をさらに悪化させることになると思い、聞くのをやめたということ。

エ 師と秀蔵の間には何か深い事情があり、自分が立ち入るべきではないと思って聞くのをやめたということ。

問八 Vに入る言葉として、最もふさわしいものを本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

読みとれないところは 十字以内 よかったのですね。

問九 — ⑥ 「自分のしでかしたこと」とは何ですか。四十字以内で答えなさい。

問十 — ⑦ 「<sup>たまたま</sup>畳に額をすりつけた」とありますが、この時の平次の心情としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 感服      イ 納得      ウ 困惑      エ 後悔      オ 謝意

② 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

① 現代人はお互いを必要最低限にしか知り合わないコミュニケーションに慣れきっているわけである。A コンビニで買い物をする際、私たちは店員の趣味や悩みを知らないし、むしろ詮索(※細かいことまでつきつめてしらべもとめること)するのは失礼だと思なしている。近所同士もまた然り。媒介物(※両方の間にはいつて仲立ちをするもの)となる話題がない限り、近所同士はお互いについて何も知らず、知ろうともしない。

そうした、知り合わない個人生活は、プライバシーを最大限に尊重しあう真新しいニュータウンやタワーマンションでこそ顕著だが、東京全体、ひいては日本全体でも概ねそうだと言える。私たちはお互いのことを知り合わないまま、a ツウキン電車で隣り合わせになり、金銭やコンテンツを媒介物としてコミュニケーションしている。お互いのことをほとんど知らないにもかかわらず、どうして私たちは平気な顔で過(ついで)していられているのか。

理由のひとつは法治が行き届き、世界有数のセキュリティのなかで私たちが暮らしているからだろう。あちこちに設置された監視カメラによって、法からの逸脱(いつたつ)は追跡(ついせき)されやすくなった。B 個人が所有する携帯デバイスによって、私たちはお互いを監視記録できるようにもなった。

② 実際には監視も記録もしていないとしても、いつでも監視し記録できることが重要だ——往年のパノプティコン(※中央に高い塔を置き、それを取りまくように囚人の部屋を配置した円形の刑務所、中央の高い塔からは全囚人のことを監視できる。)よりもずっと裾野(すその)の広い規律訓練の場が日本じゅうを覆(おお)っているようなものである。無数のカメラと携帯デバイスによって私たちの安全や安心が、b カクホされると同時に、私たちの行動や振る舞い(ふるまい)がその影響(えいきょう)を受け続ける。

もうひとつは、③ 現代人らしい通念(つうねん)や習慣(しゅうかん)が浸透(しんとう)(※人々の間にしみとおること)しているからでもある。お互いが礼儀作法(れいぎさくぽう)や身だしなみに相応(さうおう)のコスト(※費用)を支払(しはら)い、挙動不審(きよどうふしん)と思われない言動(げんどう)に終始(しんじ)していれば、c ジッターイとしての安全(あんぜん)はともかく、お互いの安心(あんしん)は保たれる。お互いの個人生活を侵害(しんがい)しないためには、無臭(むしゅう)であることも重要だ。他人に迷惑(めいわく)をかけてはならないというテーゼ(※活動方針)はお互いのプライバシーな個人生活を最大限に尊重するべきという功利主義的(こうりきしぎてき)(※全手の行動が、幸福や快楽を

もたらずかどうかに重点を置く考え方)なニーズ(※欲求)と一致したもので、令和時代の日本人のほとんどは、このテーマを当たり前のものとして内面化している。

C お互いを知り合わないままのスタンドアロン(※孤立・他と関係を持たない)な生活では、他人に対する不安を完全に拭い去ることはできない。今日でも、マスメディアがセンセーショナルな事件を報道するたび、人々は報道に釘付けになる。先にも述べたとおり、実際には犯罪は減り続けており、監視カメラをはじめとする犯罪抑止力は日に日に高まっている。④夜のコンビニも子どもの外遊びも、昭和時代よりずっと安全になったはずなのに、私たちが昭和時代に比べて安心するようになったわけではない。セコム株式会社の調査では、近年の私たちの治安に対する懸念(※気にかかって不安に思うこと)はD 高まっているし、今日の保護者は地域に対して第一に安全を期待している。

個人のプライベートな生活を守りあいながら、安全・安心な生活を維持するために、私たちが支払っている代償は決して小さくない。清潔であるため・挙動不審と思われるため・臭いや行動で他人に迷惑をかけないための通念や習慣にすっかり馴らされた私たちは、個人それぞれが自己主張する社会とは異なった、⑤日本独特の功利主義的状況をお互いに強いている。このような通念や習慣がまだ、デイチャクしていなかった二〇世紀の中頃には、日本でもヨーロッパ並みにデモンストレーションやストライキがあったが、今日ではデモンストレーションやストライキは少なくなり、それらを単なる迷惑や騒乱のたぐいと見ている人も少なくない。どれほどハイレベルな秩序を実現したところで、個人のプライベート化を至上命令とし、実際そのように生きてきた私たちはEだ。ゆえに、そのEについてまわる不安を完全に拭うことはこれからもできないだろう。それでも不安を拭うべく、私たちはますます行儀の良い通念や習慣をエスカレートさせ、監視カメラや携帯デバイスで自分たちをホウイし、自己主張を最小化した日本ならではの秩序を形づくってやまない。

(熊代 亨 著『健康的で清潔で、道徳的な秩序ある社会の不自由さについて』一部改変)

問一   に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけません。)

- ア とはいふもの      イ そのうえ      ウ むしろ      エ たとえば

問二 ー①「現代人はお互い<sup>たが</sup>を必要最低限にしか知り合わないコミュニケーションに慣れきっている」とありますが、これはどのような考えがあるからですか。に入る言葉として最もふさわしいものを本文中から二十五字以上三十字以内で抜き出して答えなさい。

という考え

問二 ー②「実際には監視<sup>かんし</sup>も記録もしていないとしても、いつでも監視し記録できることが重要だ」とありますが、「監視も記録もしていない」のになぜ、重要だといえるのですか。説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつでも監視できるといふ技術の進歩に期待して、安心な社会を作ることができから。  
イ いつでも監視できると思わせることで、人々に悪いことをする気を起こさせないようになるから。  
ウ いつでも監視し記録できることだけで、人々を善良な人間に訓練できることになるから。  
エ いつでも監視し記録できる技術があるだけで、世界有数の安全な国と認められるから。

問四 — ③「現代人らしい通念や習慣」とありますが、この例として筆者の言いたいことに合わないものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 他人の個人生活をあれこれ聞かないようにする。
- イ なるべく誰とも関わらないように生活する。
- ウ 自分が発する臭いに気をつける。
- エ 公共の場で大声で話さないようにする。
- オ 自分は安全な人間だとアピールする。
- カ 他人を信用せず、互いに監視して安全を守る。

問五 — ④「夜のコンビニも子どもの外遊びも、昭和時代よりずっと安全になったはずなのに、私たちが昭和時代に比べて安心するようになったわけではない」とありますが、これはなぜですか。理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 個人のプライバシーな生活を守るために必要な負担が大きすぎるから。
- イ どれほどハイレベルな秩序を実現しても、他人を知らないことへの不安が残るから。
- ウ いくら犯罪が減ったとはいえ、ゼロになることはないから。
- エ マスメディアが事件をセンセーショナルに報道しすぎるから。



〇〇町 住民アンケート

住民の皆様へ

このたび、〇〇町にも防犯カメラを設置してほしいというご要望を受け、全戸にアンケートを実施することになりました。つきましては以下の質問にご回答をお願いいたします。

〇〇町長 山田太郎

Q1 あなたはお住まいの地域に防犯カメラを設置してほしいと思いますか。どちらかに○をつけてください。

はい いいえ

Q2 Q1のように答えた理由を具体的に書いてください。(50字以内)

問題は、ここまでです。







関東学院中学校・二〇二三年度入学試験問題

# 国語

(一期B)

・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

時間 五〇分

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとす。)

PIZZAと書いて「ピザ」と読ませたのは、日本語の発音ではそのほうがラクだからで、おそろしくニコラス ※日本で初めてピザを紹介した店が考案したこの読みかたも、その後の普及の要因のひとつになったものと思われま

す。現在、ピザは世界中で人気の食事ないしはスナックとして暮らしの中に定着していますが、この食べものを世界中に広めたのはアメリカ人です。

イタリアから伝わった、歴史的な背景のあるローカルな食べものを、アメリカがいったん引き受けてそこで本来の①郷土色を払拭し、世界のどこでも同じように受け容れることのできる、新しい食べものに変えて再輸出したのです。

② アメリカは、一個の巨大なる過器である、と云っていいでしょう。

味にうるさいフランス人をも席卷したマクドナルドのハンバーガーは、二十世紀の中頃、自動車産業が隆盛する時代にカリフォルニアのロードサイドで生まれましたが、中のハンバーグそのものはマクドナルド兄弟が発明したわけではなく、それ以前からドイツ系の移民がアメリカに持ち込んで定着していた挽肉のステーキです。

その名の通り、ドイツ北部の港町ハンブルクが発祥とされ、安くできる割には腹持ちがよいので、港で働く労働者たちの賄い料理 ※飲食店で従業員用に作られる料理 だったといわれますが、いままではもうそんな過去を詮索する人はいないでしょう。ハンブルクのステーキだからハンバーガーステーキと呼ばれ、それを丸いパンに挟んだものと同じくハンバーガーと呼ばれるようになったわけですが、いま日本でハンバーグを食べるとき、ドイツのハンブルク港を思い浮かべる人はいるでしょうか。

細長いパンにフランクフルトソーセージを挟んだホットドッグも、アメリカから世界に広まりました。ドイツのフランクフルトへ行くと、道端の屋台でソーセージを焼きながら売っています。そのソーセージを買って、小さなパンをつけてくれます。手が脂まみれにならないようにその小さなパンでソーセージを挟むのですが、ホットドッグとは似ているけれども別のものです。

それを、アメリカに移民したドイツ人が、柔らかい長いパンのあいだにソーセージを完全に挟み込んで、手を汚さずに食べられ

るように改良したのです。これも二十世紀の中頃にはニューヨークで流行しはじめ、その後、世界中に輸出されることになりましたが、いまの中国人がホットドッグを食べるとき、そのソーセージがフランクフルトの出身であることに思いをいたすことはないでしょう。

どの国や地域の郷土食も、古くからの歴史や、土地との繋がりや、ときに重苦しい過去の思い出を引きずっているものです。それが遠いところへ伝播するとき、どうしてもその食べものをめぐる物語がいつしよにくつついてくるのだとしたら、その重さやしがらみは受け容れる者にとっては大きな障害になるでしょう。

世界中から移民が集まる「自由の国」アメリカは、ヨーロッパや、アジアの、古い歴史をもった国々が何百年も何千年もかけて育んできた文化や伝統を、なんでも分け隔てなく受け容れて吸収し、こんどはそれを、アメリカ方式の、軽い、薄い、万人向けの味に調え直して世界に再輸出するのです。

アメリカというろ過器によつてろ過された食べものは、ローカル色を失ったかわりにグローバルな中立性を獲得し、誰もが気軽に受け取れるものに変身します。

ピザも、ハンバーガーも、ホットドッグも、アメリカ人のライフスタイルが憧れとされてきた時代に、世界中に拡散しました。いま、世界中で流行しているのは、スシをその先頭とする、日本の料理とその食材です。

日本人はこれまで、世界中の料理や食材を、ほとんど無制限といつていいほど寛容に受け容れてきました。明治以降、そしてとくに一九四五年の終戦以降、外国の食文化をこれほど広範囲に受容した国は世界でも例外的だといつていいかもしれません。少なくとも世界史の現在の時点で、

「今夜はカレーにする？ ハンバーグにする？ それともスパゲッティにする？」

と、毎日の夕食を二つの異なる外国の食文化から選ぶ民族は、いまだかつて地球上に存在したことがありません。

しかし、そうして世界から輸入したものはかりで占められるようになったと思っていた日本の食卓が、いつからか、その輸入したものを③日本人の感性で磨き直し、あらためて世界に輸出するようになっていたのです。

スシは、もともとは東南アジアの山間部に発祥した川魚や肉類の保存法で、日本に伝来した当初は、炊いた米飯と合わせて発酵させ、熟成を待つ、できるまでに長い時間のかかるものでした。いまま残る近江の鮎ずしがそのタイプですが、その後、時代を追うごとに製作時間を短縮する方向に進化を遂げ、江戸時代になって、食べる直前に酢めしと魚片を重ねて圧着する、いまのようなつくりかたが開発されました。

これが江戸前の握りずしの誕生ですが、誕生した頃の握りずしは、いまの二倍かそれ以上も大きいサイズだったといわれています。

スシは、一九六〇年代から、アメリカ西海岸に渡った日本人の手で外国人に知られるようになります。が、ハリウッドのスターが気に入って宣伝の役を買うなど一時的に小さなブームを起こしたことはありますが、スシを握る職人はほとんど日本人に限られており、一般の市民にまで受け容れられたというわけではありませんでした。

スシがいまのような世界的な流行になったのは、一九九〇年代の終り頃にヨーロッパで受け容れられるようになってからのことです。ロンドンではじまり、パリに飛び火したその流行を支えたのは、④ スシ・ロボット(自動スシ握り機)と回転すしのシステムでした。

スシ・ロボットも、回転すしのシステムも、海外に進出する目的で開発されたものではありません。東南アジアの保存食をなぜか日本人だけがまったく別のかたちに進化させ、江戸時代に握りずしが発明されてからも絶えず改良の手を止めず、より小さく、よりカワイイ、おもちゃのような食べものにまで磨き上げてきた上に、こんどは熟練の職人でなくてもスシが握れるように、狭いカウンターではなくもっと広いスペースで大勢の人が楽しめるようにと、日本の国内における、スシという高級食品の大衆化を狙って開発されたのがこれらの機械なのです。

なにもそこまで考えなくてもいいのに、と思うほど、いったんできあがったものをさらにとことんいじくって、より細密なものに、より洗練されたものに、より使い勝手のよいものにと、不必要なほどの改良を加えるのが日本人の特性で、現代のスシは、そうやっていわゆる「⑤ ガラパゴス化」してきた結果として、生まれたものなのです。

が、そうしてたどりついた特殊な進化のかたちが、それまで存在していた「高級料理」とか、「伝統料理」とか、「ローカルフード」とかいった⑥限定的なイメージを破る方向に働いて、スシの世界進出を後押ししたのでした。

日本人以外の誰が、回転するレーンに皿を載せて、タイミングよく取らないと逃げていく、ゲームのような食べかたを考えつくでしょうか。しかし、ロボットやゲームという現代的なキーワードが、⑦職人技術的なパリアを解放するテクノロジーの革新とともに、一挙に無国籍的な現代性をスシに付与したのです。

スシのケースは、現代における食の伝播を考えると、きわめて示唆的な要素を含んでいるように思われます。

アメリカが一個の巨大なる過器であるとすれば、日本は新しい小さな研磨機（※表面を磨いてなめらかにするための機械）である、といえるかもしれません。世界中からなんでも受け容れて、それを一所懸命に磨き上げ、もとのかたちがわからなくなるほどツルツルにして、誰もがカワイイと思えるものに変えてしまう。スシに続いて、いま世界から注目されている日本の食は、弁当、洋食、ラーメン……どれも、日本がガラパゴス的な研磨作業で⑧日本化したものばかりです。

いずれにしても、世界のどこでも、経済が発展して生活が豊かになれば、かならず、これまで毎日食べ続けてきたものに飽きを感じ、なにか目新しいものを食べたいという欲求が生まれます。日本食のブームがいつまで続くかはわかりませんが、伝播が流行とかたちを変えたいま、スシのように、古くからあったのに知られていなかった食文化が、ある日なんらかのきっかけで世界的に流行する、コロナプスによる新大陸の発見のような出来事はこれからも起こるに違いありません。

（玉村 豊男 著『食卓は学校である』一部改変）

問一——①「郷土色」とありますが、筆者の考える「郷土色」とはどのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の生まれた土地や、自分を育てた地理的環境との繋がりを持ったもの。
- イ その土地の人々が持つている独特の味覚を生かした調理法によって作られたもの。
- ウ ある地方の自然・風俗・人情から感じられる特徴を、地名を入れて名前としたもの。
- エ 古い歴史を持ったそれぞれの土地との繋がりが、過去の思い出を持つたもの。

問二——②「アメリカは、一個の巨大なる過器である」という箇所について、本文の内容を参考にして三人の生徒たちが話し合  
いをしました。□に適切な十字以内の表現を本文中から抜き出して答えなさい。

泉さん 「ろ過」って液体や気体に固体が混ざっている時に、ろ紙などのフィルターを通して固体を取り除くことだよな。

英之さん じゃあ、アメリカが「ろ過器」ってどういうことだろう。

俊さん アメリカというフィルターを通ることによって、ローカル色が取り除かれるってことじゃないかな。

英之さん なるほど。アメリカでろ過された食べものは、□を手に入れるってことにつながるね。

泉さん だから世界の人たちに受け容れられたんだね。

問三 ――③「日本人の感性」とありますが、その特徴を説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 完成しているものを、より細密なものに、より良いもの使いやすいものに改良していくとする。
- イ 世界中の料理や食材を、ほとんど制限なく広く受け容れようとする。
- ウ 外国の食文化を広く受容することによって、食事を選ぶときに、その都度異なる食文化から選ぶ。
- エ 世界から輸入した料理や食材を、独自に発展させて世界に再輸出する。

問四 ――④「スシ・ロボット（自動スシ握り機）と回転すしのシステム」とありますが、この二つは何を目的として作られましたか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世界進出
- イ ローカルフードの進化
- ウ 国内での大衆化
- エ 職人の技術の伝承

問五 ――⑤「ガラパゴス化」とありますが、この言葉は本文中ではどのような意味で使われていますか。十五字以上二十五字以内で考えて答えなさい。ちなみに、スマートフォンが広まる前の携帯電話のことを「ガラケー」と呼びますが、これは「ガラパゴス携帯電話」という言い方を略したものです。この言い方は「ガラパゴス」という言葉を悪い意味合いで使った言い方ですが、本文中では良い意味合いで使っています。

問六 ― ⑥「限定的なイメージを破る」とありますが、それはどういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本に古くからあったのに知られていなかった料理に、現代性を付与することによって、世界進出すること。
- イ 特殊な進化をすることによって、ローカルフードというイメージで世界から注目されるようになっていくこと。
- ウ ロボットやゲームという現代的なキーワードを生かすことによって、無国籍的なイメージを付与すること。
- エ 日本人の職人によって作られる、古くからある高級なものというイメージを、より広く親しまれるものに変えること。

問七 ― ⑦「職人技術的なバリアを解放する」とありますが、それはどういうことですか。具体的に説明している箇所を、本文中から十五字程度で抜き出して答えなさい。

問八 ― ⑧「日本化」とありますが、ここでいう「日本化」の内容にあてはまらないものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世界中から受け容れたものを、もとのかたちがわからなくなるほど磨き上げること。
- イ 国籍を感じられないほど磨いて、現代的なものに変化させること。
- ウ 世界中の食べものを受け容れて、味を調整し、新しい食べものに変えること。
- エ カワイイと思われて世界中から注目されるのと同じように、いろいろと磨いていくこと。

〔二〕 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

「すまなかつたね、わざわざ呼び出したりして。本当なら先生のほうから行けばよかつたんだけど」

「いいえ。できるだけ歩けと定村先生からは言われています。それに、八年間この病院にいて、①「こ」だけ入ったことがなかつたんです」

つい三ヶ月前までは、霊安室もその部屋のひとつだった。けれど、母が病室から移され、ぼくは去年の暮れに初めてそこに足を踏み入れていた。白いタイルに囲まれた、何もない小さな部屋だった。a「マ」がなく、すすり泣くような音を立てて換気扇が回っていたのを、ぼくは今も覚えてる。

つえを脇に置き、ソファに座った。病室のベッドより、かなりふかふかしている。けれど、ひじかけや背もたれの布が、ところどころすり切れたようになっていた。

先生が驚いたように、b「メカネを押し上げて言った。」

「じゃあ、何かな。君は、薬局やカルテの保存庫にまで入ったことがあるのかい？」

「看護婦さんとかくれんぼをしたことがあります」

先生は、②「小さな目や口を顔の真ん中に寄せ、白い髪をかき回した。」

「すみません。でも、もう何年も前ですから。ぼくがまた、c「オサナ」かつたところのことなんです」

③「参ったな。君にかかったら、屋上の手すりさえ、ジャングルジムになってしまっそうだ」

院長先生はちよつとぼくをにらんでみせるような顔を作ると、鼻から息をぬいて小さく笑った。左のひじかけに体重をあずけ、苦笑いをほほに貼りつけたまま、部屋の中を見回した。

「で、どうだね、初めて足を踏み入れた院長室の「感想は？」」

「駅前の本屋さんみたいで、驚きました」

「うん。ここにあるのは、すべて病気に関係する本ばかりだね。ずいぶん古いものもあるが、病気の種類はたくさんあるし、患者さんによつて症例も違つ。まだまだこれでも足りないぐらいだ。定村先生たちも、みんなここに負けない数の本を持っていると思  
う」

先生は言つて④笑みを消すと、カルテを見る時のような顔になった。ひざの脇に立てかけておいた、ぼくのつえに目をやった。  
「カフつきからノーマルに替わつて、もうどれくらいになるかな」

「三ヶ月半です」

「じゃあ、もう充分に慣れたところだね」

「定村先生に言われて、毎日腕立て伏せをしてきたえています。少しずつですけど」

院長先生は背筋を伸ばし、熱いお豆腐を丸ごと飲み込んでしまった時のような顔になった。

「それはすごい。入院中に腕立て伏せを始めた患者さんなんて、初めて聞くよ」

カフつきの場合は、それが腕の周囲をガツチリととらえ、肩の力で体重を支えられる。けれど、にぎりの部分しかない普通のつえでは、手首や腕の力が必要になる。

「本当に君は、奇跡の人だな」

奇跡の人――。

そう言われるたびに、ぼくは何だか、<sup>⑤</sup>ぼくがぼくでないような気が、いつもする。先生たちが口をそろえて言うのだから、きつとぼくは奇跡的な回復を見せた、珍しいケースの患者だったのだろう。とても運がよかつたのだと思う。けれど、その代わりにぼくは、昔のぼくでなくなつた。それも、珍しがられる理由のひとつだつた。

院長先生は、そわそわとイスの上でお尻を動かしながら言つた。

「この調子なら、外で勉強することもできるかもしれないな。君の望んでいたように、ね」  
すぐには先生が何を言つているのか、わからなかつた。

外で勉強を？　つまりは病院を出て——？

「うれしいなあ、先生は。医者として、君にはいつも驚かされてばかりだった。だから、いつかは反対に、君の驚く顔を見てみたいと思つていたんだ」

「……ここから学校に通えるのですか？」

「こわごわとしか質問の言葉が出てこなかった。

先生は首を振つた。笑顔はまだ消えていない。

「通信——教育とか、ですか？」

「何を言つてるんだ、克かつみ君。——退院だよ。もう君なら大丈夫だ。一人でも <sup>d</sup>リツパリツパに生活をしていける」

きつとほくは⑥ だらしなく口を開けていたと思う。すぐには嬉しい気持ちがわいてこなかった。病院での生活が長く、泣いたり笑つたりの蛇口じやくちを細くしておくのが習慣になつていた。些細ささいなことで、いたずらに喜んだり期待したり、夢を見たりするのが怖くなつているところがあつた。

「八年間、よくがんばつたね。おめでとつ」

「冗談じよつだんとかじゃない——ですよね」

「君がすぐに信じられないのも無理はないよ。長いこと本当に待たせてしまったからね。けれど、ようやく⑦ 退院たいえんの方向で話がまとまつたんだ」

これまでに、何度母が退院願いを病院に出したか、わからなかった。普通の交通事故によるケガであれば、リハビリの途中ちゆうちゆうで退院していくのがほとんどだった。中にはほくに似て、昔のことをあまり思い出せない人もいた。けれど、器具を使って歩けるようになると、例外なく病院から家へ戻もどつて行った。定村先生も、病院にいつまでもいては甘えあまの気持ちが出てしまう、家へ帰つて少し無理しても今まで通りの暮らしをする努力をしたほうがいい、と言つている。それなのに、ぼくだけは退院の許可が出なかった。

ぼくはぼくであつても、昔のぼくではないからだつた。母がそう教えてくれた。ぼくは非常に珍しいケースなのだ、と。

「ただ……ね。君の場合はお母さんを「く」し、いつしよに暮らせる身寄りがいない。そのことを心配する人が少しいる。でも、君なら大丈夫だ。そう先生が太鼓判を押した。——あ、太鼓判というのはわかるかな」

ぼくは首を振った。

「つまりだ。君が一人で暮らしていけるとの保証に、先生が太鼓判のように大きなハンコを押したつていう意味だ」

ぼくが病院を出て、一人で自由な生活をおくる——。

どれほどそれを願ひ、夢に見ただろうか。

「でも、先生——」

言いかけると、院長先生はぼくの目を見てうなずいた。

「もちろん、一人で暮らしていくには、仕事を見つけて生活費を得なくてはならない。そのための仕事を見つけてもらえるよう、民生委員の人に頼もうと思つてゐる。民生委員というのは、役場から頼まれて、いろいろな理由で生活に困つてゐる人の手助けをしてくれる係の人でね。病院で言へば、足立さんのような人だと言へばわかるかな」

足立先生は、患者や家族の相談に乗つてくれる、メデイカルソーシャルワーカーという難しい名前資格を持つ先生だつた。母がぼくのことでも何でもお世話になつた、と言つてゐた。

「定村先生から君のリハビリの状態を伝えてもらへば、きつと民生委員の人が君に向く仕事を見つけてくれると思う。慣れないことは、少しきつく感じるかもしれないが、君ならやつていけると先生は信じてゐる。どうだろうか？ 仕事のことを頼んでもいいかね。仕事が見つければ、君はここから退院できる。もちろん、リハビリには通つてもらわなくてはならないがね」

「あの……。一人で生活ができるようになれば、学校へ通つこともできるんですか？」

院長先生は手をひぎの上に重ねて置いた。

「克己君。君の場合はすでに一度中学を出て、義務教育を終えている。そのことを君が覚えてゐないのは残念だが、国というのは

四角四面で——ようするに、きわめて堅苦しい考え方をするとところでね。一度義務教育を終えた者には、もう一度同じ勉強をさせるわけにはいかない、と言ふんだよ。それに、君のような大人が中学生にまじつて勉強することには、やはり少し無理がある。しかしね——」

院長先生は身を乗り出し気味になり、ぼくを勇気づけるように言った。

「高校の場合は別だ。これまでのように一生懸命勉強を続けて、入学試験を受けて合格すれば、誰もが入学できる」

「高校、ですか」

ぼくは今、母がそろえてくれた中学一年生の教科書で勉強を続けている。高校生では、気が遠くなるような難しい勉強をしているはずだ。

「⑧大丈夫だよ、君なら。お母さんが小学校の教科書を買って来てくれたのは、いつだったかな？」

「三年前です」

「ほら、君は人の半分の期間で小学校の勉強を終えた。中学だって、おそろしく同じだ。一年ちよつとのしんぼうじゃないか。あ——しんぼうというのは……」

「がまんすることですね」

「そう。そうだよ。一年と少しがまんして勉強を続ければ、君なら必ず高校生になれる。それに、病院の外に出れば塾というものだってある。あ——」

「学校での勉強をもう一度おさらいするところですね」

院長先生はため息まじりにうなずき返した。

「すごいね、君は。いや……君もすごいが、お母さんもまたすごかったと言ふべきだろうね。一人で君をここまで育てあげたんだから。君を二度にわたつてね。普通の人にできることではないよ。奇跡の人の陰には、奇跡の母あり。君のお母さんは、君にとつて、母でもありサリバン先生でもあったわけだ」

母に言われ、ぼくはヘレン・ケラーの伝記を読んだことがある。ヘレンの家庭教師の先生の名前が、サリバンさんだった。院長先生は笑顔で言った。

「いや、塾よりもっといい方法がある。うちの先生たちに、家庭教師の代わりにしてもらうんだ。優秀な先生ばかりだから、きっと期待に添えてくれると思う。何だったら、先生が見てもいい。ただし——数学以外ならね」

院長室を出ると、ぼくはまた階段を上った。④どこまでも上って行けそうな気がした。けれど、残念なことに病院は五階までしかなかった。

屋上に出た。悩んだり悲しんだり、何かあった時には、母はいつもここに来ては海をながめて気をシズめた、と言っていた。それを聞いて以来、ぼくも自然とここに足を運ぶことが多くなった。母が死んだ時も、ぼくは一人でここへ来て、泣いた。

（真保 裕一 著『奇跡の人』一部改変）

問一 ——— ①「ここ」とありますが、それはどこのことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 院長室

イ 霊安室<sup>れいあんしつ</sup>

ウ 薬局

エ カルテの保存庫

問二——②「小さな目や口を顔の真ん中に寄せ、白い髪をかき回した」とありますが、この時の先生の気持ちについて説明した  
ものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 病院内のほとんどの場所に入ったことがあるというほくの話聞いて驚いている。

イ 入院患者と看護婦さんがかくれんぼをしたという事実には大きなショックを受けている。

ウ 看護婦さんとかくれんぼをしたというほくの返答が予想だったが、怒りの感情はわいていない。

エ 患者が入ってはいけなはずの場所にほくが入ったが、看護婦さんといっしょだったと聞き、安心して居る。

問三——③「参ったな」とありますが、この時の「参ったな」という表現の意味合いとして、ふさわしくないものを次の中から一  
つ選び、記号で答えなさい。

ア かなわない

イ 気がきいている

ウ 一本取られた

エ お手あげだ

問四 — ④「笑みを消す」とありますが、この時の先生の様子について説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 病状の説明をきちんとするために、ぼくの表情をしつかり観察しようとしている。

イ 親しげな会話を一旦やめて、ぼくが今のつえの形に慣れたかどうか確かめようとしている。

ウ ぼくの顔を見て、これまで八年間のカルテの内容を思い出し、言葉が出てこなくなっている。

エ 医師として、患者であるぼくに、退院を許可するということを伝えようとしている。

問五 — ⑤「ぼくがぼくでないような気が、いつもする」とありますが、ぼくがこのように感じる最も大きな原因は何ですか。十文字以内で説明しなさい。

問六 — ⑥「だらしなく口を開けていた」とありますが、この時のぼくについて説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア うれしいという気持ちを感じるタイミングが遅れると同時に、入院生活が長いために、きちんとした表情を作るのが苦手になっている。

イ 先生の言っていることを理解するのに時間がかかり、退院という言葉も聞いても、まだ状況が分かっていない。

ウ ほんとうはこの上なくうれしいはずなのに、感情を動かさないように意識して生活してきたので、うれしく感じるこ  
とができないでいる。

エ もともと泣いたり笑ったりすることが苦手なので、喜んだり期待したり夢を見たりすることが怖くなっている。

問七 — ⑦「退院の方向で話がまとまった」とありますが、退院を認める条件として先生が言ったのはどのようなことでしたか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 世話をしてくれる身寄りがいること。
- イ 仕事を見つけて生活費を得ること。
- ウ 勉強を続けて高校へ行くこと。
- エ 退院後も勉強とリハビリのために通院すること。

問八 — ⑧「大丈夫だよ」とありますが、こう言った時の先生の気持ちについて説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア お母さんがそろえてくれた中学一年生の教科書を大事にしていれば、きっと幸福が訪れるとほくに伝えようとしている。
- イ 今やっている勉強をがまんして続けられれば、必ず高校生になれるはずだと、ほくのことを勇気づけようとしている。
- ウ 他の人の半分の期間で小学校の勉強を終えたというほくの勉強ペースを知って、驚いている。
- エ 家庭教師の役割もしていた母が亡くなってしまった今、病院の先生たちが勉強を教えることに期待している。

問九 — ⑨「どこまでも上って行けそんな気がした」とありますが、この時のぼくの気持ちはどのようなものでしたか。それについて説明した次の文の [A]・[B] を補いなさい。Aは漢字二字、Bは漢字一字とします。

退院して一人で [A] な生活をおくることをずっと願ってきたが、やっとそれがかなって、 [B] にも昇るあがるようなこの上ない喜びを感じている。

問十 — aとeのカタカナを漢字に直して答えなさい。

- a マドマドがなく
- b メガネメガネを押し上げて言った
- c ぼくがまだオサナオサナかつたころ
- d 一人でもリツパリツパに生活をしていける
- e 気をシズシズめた

問題は、ここまでです。



関東学院中学校・二〇二三年度入学試験問題

# 国語

(二期C)

・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

時間 五〇分



□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

にっこりするというのは、最も **a** カンタンな挨拶です。一瞬であつても、気持ちを通じ合わせるというサインになります。もちろん、時と場合によつては無表情でいることが必要な場合もあるでしょうが、少なくとも、友好的に生活していく上では、表情はとても大切な要素になるということは言えるでしょう。いろんな思いを伝える表情は、**A**、言葉以前の「ことば」と言えるのかもしれませんが。

例えば、アメリカの大統領候補者は自分の表情について研究するそうです。映画俳優でも片方の眉を上げ、そちらのほうの口元だけ笑うようにするという、「顔の半分で笑う」ような表情を見せてくれることもあります。やはり、表情について相意識しているのではないかと思えます。

先日、バンドン(※インドネシアのジャワ島西部にある都市)市内で、小さな子供たちが音楽を聴かせてくれるところへ行つたときのこと、たまたまとなり日本人の青年が座つていたのですが、小さな子がやってきて楽器を貸してくれても、司会者がジョークを言つても、見事なまで **b** シユウシ無表情でした。

私のような中年の世代の思い込みかもしれませんが、日本の青年たちを見てみると、あまりにも無表情だなあ、と思うことが正直いってよくあります。**B**、日本で電車に乗っている時に観察する青年たちもそうです。国際線の飛行機

の中などで、サービスを受けるときなども、ほかの国の人たちがサンキューなどと挨拶しているのに、石像のように無表情なままだつた、というのを何回か見たことがあります。会釈ぐらいたほうがいいんじゃないの、と言いたくなります。怒っているの? 威張っているの? という印象を抱いてしまうのです(もちろん、そんな人が全部ではありませんが)。

もっとも、表情には文化による違いもあります。以前、台湾南部へ行つたときに聞いた話ですが、台湾でもいろんなところから来た人たちがいて、中国大陸南部のある地方から来た人たち(この場合は客家と呼ばれる人たちでしたが)はあまりにここにこしない文化なんだそうです。国際結婚をしてその文化の人たちと同じ屋根の下で暮らしている日本人女性の方が

ら伺ったのですが、やはり、最初は怒っているのかな、ととまどったそうなんです。でも、やがて、表情には出さなくても、あたたかい心を持った、とても優しい人たちであることがわかってほっとしたといいます。

もちろん、表情を出す文化と出さない文化のいずれが「よい」などと言うことはできません。C、いろいろな人と出会う現代社会にあつては、文化的なことも含めて、表情について考えてみる。キカイを持つことはいいことのはずです。国際化時代でいろいろな文化の人と出会う場合、愛想のよい表情で失敗することより、愛想が悪い表情で失敗することのほうが多いのではないかという気がします。

①そこで、提案です。その相手と出会えてうれしい、という思いがあるならば、また、ありがとう、という気持ちがあるならば、たとえ少しでも、にっこりしてみるといいのではないのでしょうか。ほほえむだけでも、少し眉毛を上げるだけでも、唇をゆるめてびよこんど首を動かすだけでもかまいません。ちよつとした表情の違いがあなたたい雰囲気をつくると思うのです。それもできないという場合は、例えば、表情にも少し関心を持つというだけでもいいと思います。

表情も重要なコミュニケーションの道具なのです。

そういえば、電子メールでもよく、絵文字を見ます。例えば、誰かを旅行に送り出す時に「気をつけて行ってらっしゃい」というメッセージを送るとして、どんな絵文字と一緒に使うかですいぶん印象が違ってきます。

(^\_^)/

だと明るく送り出す感じ。

(;\_;)

だと、別れが寂しくて泣いている感じになります。また、謝りやお礼に使う、

m( )m

なども使えるかもしれませんが、その場合だと、丁寧な<sup>ていねい</sup>挨拶をしている、という感じになりそうな気がします。

表情は電子メールでも見事に利用されているのです。

もつとも、絵記号ですから、あまり改まった場面では使いませんが、表情も伝えられない、声の<sup>d</sup>「チヨウシ」もわからない、という電子メールでは、このように感情を伝える絵記号が発達する余地があったのかもしれない。

おもしろいことに、表情は相手を説得する場合にも有効です。話をしているとき、ここは相手によくわかってほしい、というときに眉毛を上げて相手の目を見ると、印象が違ってきました。学生時代、なぜかその人と話をすると説得されてしまうという人がいたのですが、その人は、「そうでしょうか？」と言うときに、少し眉毛を上げて、じっと視線を合わせるような話し方をしていました。話の要所要所でそういう表情を見せられると、つい、うん、うん、と首を縦に振<sup>う</sup>って。サンセイしてしま<sup>e</sup>うから不思議でした。

眉毛の動きというに変な感じがするかもしれませんが、人形を使った腹話術などでも口だけではなく、眉毛も動くようになっていく人形が多いようです。眉毛（もう少し厳密に言う<sup>う</sup>と目の回り全体）の動きは意外に大切なのです。そういえば

X 「 」ということわざもあります。

ついでながら、あのレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」の絵ですが、眉毛が見えませんが、モナリザの微笑は、楽しいのか、悲しいのか、D ほかの感情なのか、よくわからない不思議な微笑だと言われています。確かに何か不思議な感じがするのですが、このことは、眉毛が見えないということとも関係があるように思います（もちろん、背景や喪服<sup>もかく</sup>と言われる黒い服などの意味もあります）。目などの表情によって伝わる感情というものも意外に大きいのです。

目のことが話題になりましたが、もう一つ大切なのは視線です。どこを見るかということですが、特に、相手の目と視線を合わせることをこれはアイコンタクト (eyecontact) といいます。

② これも文化によって違います。例えば、バンングラデッシュでは、目上に対しては下をむいたまま話をするそうです。日本でも、昔はどちらかというところだったようですし、今でも、日本では、子供が親に怒られるとき、じつと親の目を見たりはしません。話を聞いているという印として、相手の目を時々は見ますが、じつと見つめることは、むしろ、反抗の気持ちを表すことになるのではないのでしょうか。

一方、イギリスの人から聞いたのですが、小さいころ、親からしかられるとき、よく「私の目を見なさい！」

と言われたといっています。相手の目を見ないことは、相手の話をきちんと聞かないということなのだそうです。ただし、日本でも、相手と話をする場合には、きちんと思いを伝えるとき、時々相手目を見るのが普通ふつうのようです。学生時代、面接試験の時は、相手のネクタイのあたりを見なさい、と教えられました。自分が面接員になった時の個人的印象では、ぼんやりと目を合わさなままにいるよりは、むしろ時々相手目を見てしっかりアイコンタクトを取るほうが自信をもって話をしているような気がします。

(森山 卓郎 著『コミュニケーションの日本語』一部改変)

問一 

A
---

D
---

 に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号を二度以上使ってはいけません。)

- ア いわば    イ しかし    ウ それとも    エ そのうえ    オ 例えば

問二——①「そこで、提案です」とありますが、筆者はどんな問題を解決するために提案しているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の表情だけでは本当の気持ちがはかれないこと。
- イ 文化の違いから人間関係の不和が生まれてしまうこと。
- ウ 表情を出す文化と出さない文化のどちらが良いか決められないこと。
- エ 日本の若者がほかの国の人たちよりも無表情であること。

問三  X に入る言葉として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 目は口ほどにものを言う
- イ 目からうろこが落ちる
- ウ 一目置く
- エ 目と鼻の先

問四——②「これ」とはどういうことですか。「コミュニケーション」という言葉を用いて、三十字程度で答えなさい。

問五——「文化による違い」とありますが、本文で挙げられている表情や叱られ方の違いのように、あなたが知っている「文化による違い」の例を一つ、考えて書きなさい。

問六 本文の内容に合うものを、次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 筆者のような中年世代から見ると、現代の日本の若者は表情に乏しいので改善すべきだとは思うものの、若者の文化を尊重したい気持ちもあり、筆者は葛藤している。

イ 表情はアメリカの大統領候補者たちでさえ研究するコミュニケーションの道具であり、電子メールでは伝わらないような、細かな感情まで表現することができる。

ウ 世代だけではなく、国や地域によっても文化による表情の違いがあり、何が正しいとは一概には評価できないが、意識して過ごすことは今後の社会を生きる上で役に立つはずだ。

エ 表情は立派なコミュニケーションの道具だが、眉の動きや視線なども、人との関わりの中で大きな説得力や意味合いを持つ場合がある。

オ 日本でも、コミュニケーションを取る際には、イギリスのように相手の話をしっかり聞いているということをアピールするために目をじっと見て話すべきである。

問七 1 a e のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- a 最もカ<sup>ん</sup>タ<sup>ン</sup>な<sup>あ</sup>い<sup>さ</sup>つな<sup>あ</sup>い<sup>さ</sup>つです
- b 見事な<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>でシ<sup>ュ</sup>ウ<sup>ウ</sup>シ<sup>シ</sup>無<sup>む</sup>表<sup>ひょう</sup>情<sup>じょう</sup>で<sup>し</sup>た
- c 表情<sup>ひょうじょう</sup>について考<sup>く</sup>え<sup>て</sup>み<sup>る</sup>キ<sup>カ</sup>イ<sup>い</sup>を持<sup>も</sup>つ
- d 声<sup>こゑ</sup>のチ<sup>ョ</sup>ウ<sup>ウ</sup>シ<sup>シ</sup>も<sup>も</sup>わ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>な<sup>な</sup>い
- e 首<sup>くび</sup>を<sup>を</sup>縦<sup>た</sup>に<sup>に</sup>振<sup>ふ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>サ<sup>ン</sup>セ<sup>イ</sup>シ<sup>シ</sup>て<sup>て</sup>し<sup>ま</sup>う

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

久しぶりに、動物園特有のにおいをかいで、楓は「くさい……」と顔をしかめた。

動物の糞尿や体臭の入り混じったにおいや、鳥やサルの鳴き声が、風に乗って運ばれてくる。

入園ゲートを抜けると、ピンク色をしたフラミンゴの群れが、目に入った。

「いい天気になってよかったな。雲ひとつない青空。絶好の動物園日和だな」

うれしそうな声で話す父親の横で、①楓は無言のまま、スマートフォンを取りだす。そして、色鮮やかなフラミンゴを撮影して、SNSに写真をアップした。

#### 〈動物園に来ています〉

自分の存在を確認したくて、いまなにをしているのか、いちいちインターネットに公開する。

②「かーえでちゃん」

父親は猫なで声を出して、わざとらしく「ちゃんづけ」で名前を呼ぶと、楓のスマートフォンを指さした。

「パパとおでかけしてるときは、ネット禁止」

目の前にだれかがいるときにスマートフォンをいじることはマナー違反だと、父親は言うのだ。

「そんな感覚、古いつて。みんな、しゃべりながらふつうにネット見たりしてるし」

「それでも、パパはやめてほしいんだ。せっかく大好きな楓といっしょにいるのに、ネットをされたら、淋しくていやな気持ちになるだろ。相手がいやがることをしないというのが、マナーだよ。さあ、行くぞ。パパはトラが見たいんだ」

楓はスマートフォンをしまうと、つまらなさそうな顔のまま、意気揚々と歩く父親のあとについていく。

楽しくないわけではないが、いい年をして父親といっしょに動物園なんかに来てうれしそうにしているのは、プライドが許さないという気分なのだ。

茶色く塗られたコンクリートの上で、アムールトラがゆっくりと歩いている。

トラというのは、美しい生き物だ、と楓は思う。

その毛並み、金色の瞳、堂々とした体格……。巨体でありながら、ネコ科の動物だけあって、歩くときには足音を立てず、その動作は優美ですらある。

「写真を撮るのはいいでしょ？」

父親に確認してから、楓はスマートフォンを取り出して、トラのすがたを撮影した。

「あの作文（※楓が以前父親に書いて見せた作文）で、楓は動物園について、否定的な意見ばかりを書いていただろう？」  
トラを見つめながら、父親は問いかけてくる。

「うん、だって、どう考えても、動物園なんて人間のエゴなもの」

「たしかに、動物園は人間を楽しませる『娯楽』のための施設ではある。けれども、それだけじゃない」  
「どういうこと？」

「動物園には『保護』や『研究』という役割もあるんだ。絶滅のおそれがある動物を飼育することは、種の保存という観点からも大切なことだよ」

そんな父親の言葉を聞きながら、楓はトラの檻の横に展示されている自然保護区の写真を見つめる。

環境破壊などによって野生のアムールトラはすむ場所を奪われ、数が減っていると書かれていた。人間が保護しなければ、絶滅してしまうおそれがあるらしい。

作文を書くとき、楓はまず、結論を決めていた。

動物園に否定的な内容にしようと思っていたから、インターネットで情報を探すときにも、<sup>③</sup>自分の主張に合う情報ばかりを求めていたのだ。

もし、検索をするときに「動物園」というキーワードといっしょに、<sup>④</sup>ポジティブな言葉を入力していれば、まったくち

がった情報を目にしていたらう。

インターネットには、さまざまな情報があふれている。しかし、検索の仕方によって、そこから引きだされる情報には、かたよりが出てくるのだ。

「それに、動物園の役割には『教育』というものもある。いま、楓はこうして、実物のトラを見たり、展示を読んだりして、学んでいるだろう？」

楓がうなずくと、父親は話をつづけた。

「もちろん、それだって人間の都合であり、エゴと言えるのかもしれない。どんなことにも、肯定的な面があれば、否定的な面もある。さまざまなことを知ったうえで、うまく楽しめるのが大人なのかもしれないな」

ふたりはそれから、順路にしたがって、クマやゾウなどを見て歩き、サル山にたどりついた。

楓たちはベンチに座って、サル山をながめながら、少し足を休ませることにした。

サル山では、何十匹ものサルたちが、思い思いの場所で、昼寝をしたり、毛づくろいをしたりしていた。

子ザルたちがちよこまかと動きまわるすがたはかわいい。一方、大きなサルはどことなくこわい感じがする。

「サルはどうして、毛づくろいをするのだと思う？」

父親の質問に、楓は少し考えて答える。

「ノミをとっているんじゃないの？」

「あれは自分たちの絆をたしかめあうコミュニケーションのための行為らしい」

楓はサルたちを観察しながら、父親の言葉を聞く。

体格の大きなサルのところには、つきつきにべつべつのサルがやってきて、毛づくろいを行っていた。その様子は、まるで「機嫌を取っているかのような」

「群れで暮らすと、敵から自分たちを守りやすい。けれども、他者と暮らすことには、ストレスも生じる。そのストレスをやわらげて、良好な関係を維持いじするため、サルもヒトも『毛づくろい』が必要だというわけだ」

「サルもヒトも……って、人間は毛づくろいなんかしないでしょ」

「⑤ 人類は毛づくろいのかわりとして、言語を発達させた、という説があるんだよ」

「毛づくろいのかわり？」

「人間も初期のころはサルのようにスキンシップによってコミュニケーションを取っていた。だが、群れの規模が大きくなると、毛づくろいなどをする時間が足りなくなる。かわりに、言語が発達して、うわさ話やゴシップを伝えることを好むようになった、と考える研究者もいるんだ。おもしろいと思わないかい？」

仲良くするために、せつせと毛づくろいをするサルたち。

それはたしかに、つながりをたしかめあうためにせつせとインターネット上でメッセージのやりとりをする自分たちに似ているかもしれない、と楓は思った。

父親がベンチを立ち、トイレへむかう。

そのすきに、楓はスマートフォンを取りだして、SNSをチェックした。

先ほどの書きこみに、結衣ゆいから返信があった。

「いいね！ 私も動物園、行きたーい！」

たったこれだけの文章なのに、楓はプレゼントを贈おくられたような気持ちになる。

ずっと、ふつうの友達がいたんぶきあいというものには、興味がなかった。

概念がいねんとしての「サル」という言葉を使って、楓は見下すようなニュアンスで、クラスメイトたちのことを「サル山のサルみたいだ」と思っていた。

けれども、実際にサルたちをながめてみると、<sup>⑥</sup>バカにするような気持ちにはならない。まったりとした霧<sup>ふんいき</sup>囲気のなかで、サルたちは気持ちよさそうに、毛づくろいをしている。

結衣とやりとりをするのは、楽しい。

友達になりたい、と思っっているのだ。

ようやく、楓は自分の気持ちに、気づいた。

そして、とまどう。

これまで、ちゃんとした友達なんて作ったことがない。

ふつうの友達づきあい、というものは、どうすればいいのだろう……？

検索してみようかな、と思う。

しかし、スマートフォンを片手に持ったまま、楓は考えた。

インターネットには、中学生が友達と仲良くする方法についての情報はあるかもしれない。

けれども、<sup>みづき</sup>観月楓が松島結衣という女の子と友達になるための方法は、自分で見つけるしかないのだ。

楓は、これまで読んだ結衣のつぶやきを思い出す。

そういえば、以前、結衣はオオカミの動画を見て、とても感動していた。

動物のなかでも、特にオオカミが好きらしい。

父親が戻<sup>もど</sup>ってくる、楓はすたすたと歩きだした。

「あれ？ 楓、どこに行くんだ？ ペンギンは？」

⑦「オオカミが見たいの」

楓がオオカミのいる檻に近づいた途端<sup>とたん</sup>、少しだけ変わったことが起きた。

一匹のオオカミが前足をそろえて座り、あごをあげ、大空にむかつて、遠吠えをはじめたのだ。とおぼ  
楓はあわてて、スマートフォンをかまえ、その様子を動画で撮影する。

ここには、ほかに、オオカミなんていない。

それなのに、オオカミは遠吠えをつづける。

だれに、なにを伝えようとしているのか……。

「ねえ、パパ。動画って、どうやってアップするの？」

楓はとりにいる父親に教えてもらって、さっそく、いま撮ったばかりの動画をインターネットで公開してみた。それから、結衣にメッセージを送る。

〈こんにちは！ オオカミ、好きだったよね？ よかったら、見て〉

動画のアドレスを送ると、すぐに結衣から返信があった。

〈見たよ☆ すごい！ かっこいい〉

それだけじゃない。

動画のサイトには、ほかの知らないひとたちからも、いくつかコメントが載っていたのだ。

〈オオカミ好き〉

〈動物園のオオカミも、遠吠えするのか〉

〈good〉

〈久しぶりに、動物園に行きたくなった〉

SNSのおもしろさ、つながることの楽しさが、楓にも理解できた気がした。

現実と、おなじなんだ。

ネット上であろうが、現実だろうが、だれかが自分のことを気にしてくれると、うれしい。

ささいなことでもいい。あいさつを交<sup>か</sup>わすようなもの。深い内容なんてなくても、そのやりとりに意味があるのだ。

⑧ サルになるのも悪くはないかな、と楓は思った。

(藤野 恵美 著『雲をつかむ少女』一部改変)

問一——①「楓は無言のまま」<sup>かえで</sup>とありますが、このときの楓の気持ちを表した一文を本文中から探し、初めの五字を抜き出して答えなさい。

問二——②「かーえでちゃん」とありますが、このときの父親の心情として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかくのおでかけを険悪な雰<sup>ふん</sup>囲<sup>いき</sup>気にしたくないので、場を和<sup>なご</sup>ませつつも楓のマナー違反<sup>いはん</sup>を注意したいという気持ち。

イ 普段<sup>ふだん</sup>呼ばない呼び方をする<sup>こと</sup>で本気で怒<sup>おこ</sup>っている<sup>こと</sup>を伝え、絶対にネットをやめさせたいという気持ち。

ウ 楓がマナー違反を二度としないように、見つけたその場でできるだけはっきりと注意しなければならぬという気持ち。

エ マナー違反を人前で注意した<sup>こと</sup>で、普段から良好な関係でかわいがっている楓に、嫌<sup>きら</sup>われたくはないという気持ち。

問三 — ③「自分の主張」とありますが、かえり楓の主張とはどのようなものですか。「施設」という言葉を用いて、二十字以内で答えなさい。

問四 — ④「ポジティブな言葉」とありますが、「動物園」と一緒にいっしょ検索されるポジティブな言葉としてふさわしいものを、次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- |   |    |   |                       |   |     |   |      |   |    |
|---|----|---|-----------------------|---|-----|---|------|---|----|
| ア | 赤字 | イ | 楽しみ方                  | ウ | スリル | エ | おすすめ | オ | 工夫 |
| カ | 高級 | キ | 老舗 <small>しにせ</small> | ク | 値上げ |   |      |   |    |

問五 — ⑤「人類は毛づくろいのかわりとして、言語を発達させた」とありますが、この理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間はほかの動物と異なって群れて生活をしないので、スキンシップの代わりに言語によるコミュニケーションが発達していったから。
- イ 人間はほかの動物より知能が発達しているため、スキンシップによるコミュニケーションよりもうわさ話やゴシップを好むようになったから。
- ウ 人間の数が増えていくにつれて群れの規模が大きくなり、スキンシップによるコミュニケーションを取る時間が足りなくなったから。
- エ 言語はスキンシップよりも容易かつ的確にコミュニケーションが取れるため、日々時間に追われている現代人に適応していたから。

問六 ——— ⑥ 「バカにするような気持ちにはならない」とありますが、この理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 楓はこれまで動物園の動物たちは不幸だと思い否定的だったが、実際にサル山のサルたちを見ると幸せそうな環境で過ごしていたから。

イ 楓はこれまで無意味なコミュニケーションをとるクラスメイトたちを見下していたが、実際に自分も友達作りをしたことがなく、とまどったから。

ウ 楓はこれまでスマートフォンだけで友人たちとコミュニケーションをとっていたが、サルたちを見て直接関わるのも悪くないと思ったから。

エ 楓はこれまで友達づきあいに興味がなかったが、サルたちの毛づくろいを見て、少し見ただけではわからない意味があることに気づいたから。

問七 — ⑦ 「オオカミが見たいの」とありますが、楓かえでがオオカミを見たい理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 結衣ゆいが以前オオカミの動画を見て感動していたので、写真を撮とって結衣に見せたら優越感ゆうえつかんに浸ひたれると思ったから。

イ 結衣が、動物の中でも特にオオカミが好きなようだという事を思い出し、友達になるきっかけを作れると思ったから。

ウ オオカミの檻おりで少しだけ変わったことが起こっていたので、写真をSNSにアップしたら目立てると思ったから。

エ 父親と二人きりで動物園にいるのが嫌いやで、ペンギンを見たがっている父親に素直すなおに従いたくなくなっていたから。

問八 — ⑧ 「サルになるのも悪くはないかな」とありますが、楓かえでがこう思うきっかけになったものを次の中から**すべて**選び、記号で答えなさい。

ア 動物園でサル山のサルが毛づくろいをしている様子を見たこと。

イ 初めは気乗りしなかったものの、父親と一緒に動物園に来たこと。

ウ それまで否定的だった動物園にも、様々な役割があることを父親から教わったこと。

エ 友達を作る方法を生まれて初めてインターネットで検索けんさくしたこと。

オ 結衣ゆいや、知らない人たちとネットを通じてやりとりをしたこと。

問九 この文章には、友達づきあいについての楓の心情の変化が描かれていますが、それ以外についての楓の心情の変化を、「SNS」という言葉を用いて、「楓はこれまで」に続くように六十字以内で答えなさい。

問題は、ここまでです。



関東学院中学校・二〇二三年度入学試験問題

# 国語

(二期)

・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

時間 五〇分

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をよくむものとする。)

人が行動すると必ず起こる失敗は、人間の活動と切っても切り離せないものです。そうであるなら遠ざけるといって無駄な抵抗をしても意味がありません。ギヤクに失敗することを数のうちに入れて、①失敗の特性を知ったうえで上手に付き合いながら、これを個人の成長や社会を進歩させる貴重なタネとして利用するほうがいいのではないのでしょうか。

失敗のプラス面を象徴する言葉に「失敗をバネに」とか「失敗を糧に」というのがあります。この「バネ」や「糧」は失敗をしたときの痛みと深い関係があります。そして多くの場合、②バネや糧の力は失敗によって被る痛みや悔しさなどに比例して大きくなる傾向があります。

どんなことにも適しているタイミングがあります。人が新しい知識を獲得して大きく成長するときもそうです。ある条件が整っているタイミングで知識を獲得すると、そこで人は大きく成長することができます。それではその条件が整っているタイミングとはどんなときでしょうか？

一つは、対象に対して強い興味を持って意欲的に取り組んでいるときです。もう一つは、失敗したことで痛みや悔しさを感じているときです。

両者に、**キョウツウ**しているのは、その人の頭の中に、新しい知識を受け入れる素地ができていくことです。強い興味を持っている対象に対しては、意欲的かつ集中して取り組むことができますので、乾いた砂に水が染みこむように新しい知識をどんどん吸収することができます。失敗して痛みや悔しさを感じているときも、受け入れの素地ができている点は同じです。こちらは痛みや悔しさゆえに失敗経験がその人の中に強く残って、「次はあんな失敗をしたくない」という意識が強い学習意欲につながったり、失敗することで得た新たな知識を自分の中に強く定着させる力になるのです。

ですから、③**いちばん成長が期待できるのは、意欲的に取り組んでいる中で「適度な失敗」をするときです。**失敗の程度は軽微なものから重大なものまでさまざまですが、高い学習効果があるからといってなんでもかんでも経験すればいいというものではありません。

ません。たとえば命に関わったり心身に大きな傷を残すような失敗は絶対に避けなければなりません。これも失敗と上手に付き合う重要なポイントの一つです。

ここではわかりやすいように「適度な失敗」という言葉を使いました。これは失敗学で言うところの「良い失敗」のことです。良い失敗は、人が成長するうえで必ず経験しなければならぬ、必要な失敗です。

「自分で考えて実行する」Ⅱ「仮説―実行―検証」のサイクルは、まさに良い失敗を含んだものということが出来ます。自分が必死に考えて実行したものが、なぜうまくいかないのか、<sup>④</sup>そうしたときに人はいちばん知識を吸収しやすい状態になっているのです。

一方で、じつは世の中の多くの失敗は、経験する必要のない「悪い失敗」です。私は失敗学を提唱していることもあり、<sup>⑤</sup>人から「畑村さんは失敗を肯定的に捉えていますよね」と言われることも多いのですが、すべての失敗を肯定しているわけではありません。

悪い失敗のc テンケイは、手抜き、インチキ、不注意、誤判断などから生じる失敗です。そのうち不注意、誤判断などは、誰も起こり得ることです。当事者にとっては大きな教訓になることが多いので、一度は経験したほうがいいのかもしれませんが、二度目はなしでしょう。これらに加えて、自分にとって意味があるものでもまわりに与える悪影響が大きかったり、心身が大きく傷つくような、自分にとって致命傷になる失敗も、避けるべき悪い失敗になります。

しかし実際に失敗と付き合う場合、一つひとつ「これは良い失敗か、それとも悪い失敗か」と細かく考える必要はありません。d ソナエとしては、手抜きやインチキはしないこと、ケアレスマスを繰り返さないこと、そして自分やまわりに多大な被害を与える失敗に注意するというくらいで十分です。もちろんこれらの心がけは、失敗をいたずらに恐れることなく、興味のあることや自分にとって必要なことに積極的に挑戦するのを前提にしています。

私が『失敗学のすすめ』を出したのは二〇〇〇年ですから、すでに二〇年以上経っています。しかし残念ながら、失敗はすべて回避すべきものという風潮はあまり変わっていないように見えます。そのいちばん大きな理由は、人の評価軸が以前とあまり変わ

つていないからだとは考えています。

失敗を嫌がる理由は人それぞれです。失敗したときの実害や心の痛みが嫌ということもあるし、それよりも人の評価が気になるということもあります。

いまの二つで言えば、<sup>⑥</sup>後者のほうが気になる人が多いようです。実害や心の痛みがそれほど大きくなければ、失敗してもたいして気にならないものです。こういう場合、「悔しいけどチャレンジの結果だから仕方がない」と開き直ったり、「ここにうまくいかなかった原因があるから次からはその部分を修正しよう」というように冷静に分析することができるところです。しかしそんな小さな失敗であっても、誰かに知られたりすると途端に冷静でいられなくなったりします。失敗したことを人に知られたときには、「恥ずかしい」とか「かつこ悪い」といった、ちよつと違った感情が出てくるからです。

失敗を「恥ずかしい」とか「かつこ悪い」と感じるのは、失敗をその人の能力と関連づけて考えているからです。「失敗するのはダメなヤツ」とか「能力のないヤツが失敗する」というふうには思っていないと、自分の失敗を人に知られたときに冷静でいられます。しかし失敗にはいろいろな種類があるので、必ずしもこの評価は正しくありません。能力不足が失敗の原因になることもありますが、能力があるからこそ失敗する、ということもよくあることです。言われてみれば当たり前で、チャレンジをしない人は失敗もしないからです。

しかし、ここで一つ<sup>⑦</sup>大きな問題があります。

第1章で取り上げたように、自分が所属している組織が、「正解は必ずあるもの」という従来の価値観で運営されている場合、「失敗」間違えた解答をしたもの」として、マイナスの評価になりがちなのです。

大部分の人は、属している組織の中で自分の評価が上がるような行動を取ります。とりわけ優等生ほどそうです。仮に本書で述べているように、「失敗することが成長のチャンスなんだ」と言われても、実際に失敗することがマイナス評価につながるのなら、失敗を避ける行動を取るほうが合理的です。

ですから失敗の取り扱いは、まずは組織における評価の基準を時代の変化に合わせて変えていかないと、結局は変わらないので

す。そしてこの評価の部分が変わらないことが、日本の組織の大きな問題だと私は考えています。

私は長年、大学や大学院で学生たちに機械工学を教えてきました。学生たちは最初はみんな初心者です。ですから、お手本となるサンプルを与えずにものをつくらせると、はじめからまともなものができるとはまずありません。うまくいく方法を教えて追体験させるといふ従来型の教え方をしても、うまくいかないことがあるくらいです。まして手本を「シメ」さずに自力で何かをやらせたら、誰もが当たり前のよう(そうくう)に失敗します。

このときの失敗は、未知との遭遇(そうくう)の中でふつうに起こるものです。いわば新しい知恵や技術(ちえ)を獲得するために必要なプロセスで、これを手抜きやインチキなどによる悪い失敗と同列にするのはおかしなことです。こういうものまで「恥ずかしい」とか「かつこ悪い」というマイナス評価をして遠ざけようとする(ちえ)と、新しいことに一切チャレンジできなくなってしまう(ちえ)。これでは新しい知恵や技術を獲得できなくなってしまうので、むしろ失敗を恐れてチャレンジしないことのほうを「恥ずかしい」とか「かつこ悪い」とするように評価の仕方を意識的に変えていく必要があるのです。

（畑村 洋太郎 著『新 失敗学 正解をつくる技術』一部改変）

問一 ― ①「失敗の特性」とありますが、失敗の特性にあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗にはマイナスの面とプラスの面がある。
- イ 失敗を遠ざけようとしても、必ず失敗は起こる。
- ウ 新しい知恵や技術を獲得(かくとく)するために、必要な失敗もある。
- エ 全ての失敗は、個人の成長や社会を進歩させることができる。

問一——②「バネや糧の力は失敗によつて被る痛みや悔しさなどに比例して大きくなる傾向があります」とありますが、どういふことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗による痛みや悔しさが強ければ、対象に対して興味を持つて意欲的かつ集中して取り組めるといふこと。
- イ 失敗による痛みや悔しさが大きいほど、学習意欲や新たな知識を定着させる力が強くなるといふこと。
- ウ 失敗による痛みや悔しさを強く感じるときは、人が新しい知識を獲得して成長できるタイミングだといふこと。
- エ 失敗による痛みや悔しさが大きいと、新しい知識を受け入れる素地ができ、知識をどんどん吸収できるといふこと。

問三——③「いちばん成長が期待できるのは、意欲的に取り組んでいる中で『適度な失敗』をするときです」とありますが、なぜですか。五十字以上六十字以内で答えなさい。

問四——④「そうしたとき」とありますが、どのようなときを指していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の考えを実行しているとき。
- イ 失敗のないよう、仮説を立てているとき。
- ウ 失敗の検証をしているとき。
- エ 改善策を実行しているとき。

問五 — ⑤ 「人から『畑村さんは失敗を肯定的こうていできに捉とらえていますよね』と言われることも多い」とありますが、なぜ「人」は筆者が「失敗を肯定的に捉えてい」と考えてしまうのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「失敗することが成長するチャンスなんだ」と筆者が主張しているから。

イ 失敗に、良い失敗と悪い失敗があることを理解していたから。

ウ 失敗学は、全ての失敗のプラス面を見つける学問だと思っっているから。

エ 何かに挑戦ちっせんしている時に起こる失敗だけを、失敗学が肯定していることを知らなかったから。

問六 — ⑥ 「後者のほうが気になる人が多いようです」とありますが、「後者のほうが気になる」のはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 失敗にはいろいろな種類があるので、能力不足が原因でないこともあるのに、人からの評価を気にする風潮が長い間日本の組織にはあるから。

イ 自分ではたいして気にならないような失敗でも、人からは、失敗と能力を関連づけて「能力がないヤツ」と評価されてしまうから。

ウ 失敗したときの実害や心の痛みが大きくなければ冷静でいられるが、人に失敗を知られると「恥はずかしい」とか「かつこ悪い」という感情が出てしまっから。

エ 小さな失敗であれば、開き直ったり、分析ぶんせきして次に生かしたりできるのに、誰たれかに知られるような大きな失敗は、マインナスの評価になると思っっている人が多いから。

問七 — ⑦「大きな問題」とありますが、どのような問題のことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新しい知恵や技術を獲得するために必要な失敗を悪い失敗と考えて、多くの人は「恥ずかしい」とか「かつこ悪い」と感じてしまうこと。

イ 時代は変化しているのに、日本の組織は「正解は必ずある」という従来の価値観で運営され、失敗をしたものにマイナスの評価をつけていること。

ウ 「失敗することが成長のチャンスなんだ」と言われても、日本の組織の大部分の人が、失敗を避けるという合理的な行動を取ってしまうこと。

エ 今の時代は失敗を恐れてチャレンジしないことをマイナスの評価とすべきなのに、優等生は失敗すること自体がマイナス評価につながると考えていること。

問八 — a k e のカタカナを漢字に直して答えなさい。

a ギヤクに失敗することを数のうちに入れて

b 両者にキョウツウしている

c 悪い失敗のテンケイ

d ソナエとしては、手抜きやインチキはしないこと

e 手本をシメさず

□ 次の文章をよく読んで、後の問いに答えなさい。(問題に字数制限のある場合は、すべて句読点、符号をふくむものとする。)

次の週の土曜日は、空がどんよりとしていた。

時間きっかりに公園に行くと、やっぱり大樹は先に来ている、ジャングルジムの上をじんどつていた。

「よっ、トール、やけに時間に正確じゃん」

と、大樹がいつもの大仏ポーズでいった。

「そりや、最後だからさ」っていつてから、<sup>①</sup>あわててつけ加えた。

「いや、ダイキが引越す前の最後っていう意味だけど。どうせまた、ダイキが帰ってきたときに集まるだろうけどさ」

「まあな……」

しばらく二人でしゃべっていると、空はいよいよ暗くなってきた。

「なんか、雨降りそうじゃね？ あいつら、おそいなー、まったく」

大樹が腕時計をちらつと見た。

「あ、なにそれ。ずいぶん大きい時計じゃん？」

って聞くと、大樹はうれしそうに見せてくれた。

「オヤジの、ゆずってもらったんだ。オヤジも昔、じいちゃんにゆずってもらったんだって。だからすっげー古い手巻きなのこれ。

でもまだ動くからね」

「へーっ、アンチックっていうんじゃないの？」

「まさか。もともと安物だったから、なんの価値もないらしいぜ。だからオレにはちょうどいいけどね。オヤジは健康チェック機能がついてるデジタルのやつに買い替えてよろこんでるけど、オレ、<sup>②</sup>デジタル時計ってきらい。なんつーか、前の時間と次の時間が、ちゃんと見えるほうがいいんだ」

「あ、それは、わかる。でも今どきは、デジタルでも時計の針の表示があつて、ちゃんと秒針が動いているみたいに見えるやつもあるよ。ぼくの目覚ましは、どつちにも切りかえられるやつ」

「でも、その針、ウンじゃん。オレはさ、ホンモノの針がチツチツと動いているのが好きなんだ。なんか生きてるみたいでかわいいからさ」

「かわいい……か」

「うん。デジタルだとき、たしかに針みたいなのが動いているように見えるけど、そこにホントの針はないだろ。それがイヤなんだ」

「そっか。たしかに……」

そのとき、旬しゆんと万千まぢが走ってきた。家が近い二人は、よくいつしよに来る。

「おそいぞー、こらーっ。罰金だ、罰金！」

大樹がどなっている間に、今の話を考えた。

「そこにはホントの針はないだろ」っていうこと。

たしかに、③最近さいきんの仮想現実ゲームバーチャルリアリティなんか、すつごくリアルだけど、本当に自分が車やロケットを運転しているわけじゃない。ゲームのなかで激突げきとつしてもケガはしないし、なんどでもやり直せる。

なんて考えていたら、バシツとせなかをたたかれた。

「よし、サッカー二対二、やろうぜ！」

「うん！」やろやろやろー！

旬と万千も、ノリノリだ。最後のサッカーだもんね。

ところが、始めたとたん、ポツポツと雨が降ってきた。

「ちえっ。雨かよ！」って大樹がおこつて、「すぐ降りやむかなあ？」ってぼくもふてくされた。けど、万千と旬がすごくホツとし

たような顔をしたのを見て、ぼくはあれって思った。

なに、この二人、もしかして、今日はサッカーやりたくなかったのかな。

さっき大樹に「うん！」「やろうやろう！」ってうれしそうにいった気がするけど、本当はちがったのかな。

これってもしかして、じいちゃんのいってた、<sup>④</sup>オモテとウラってやつ？

「早く帰ろう。大雨になりそう」って匂がいつて、万千は「じゃ月曜日に学校でねー」って告げて、二人は走りだした。

「じゃなー」って、大樹も手をふって走っていった。

最後の公園集会なのに、ちよつとあつげなすぎないか？　こんなのでいいわけないじゃん。って思ったけど、ぼくだってぬれたくないから、全力で走った。

家に帰ると、自分のデジタルの目覚まし時計を部屋から持ってきて、表示をアナログ式にして、キッチンの棚たなにある置き時計と  
ならべてみた。

ふたつの時計の針は、同じようにスーツと秒針が動いていく。

ひとつは文字盤もじばんにホントの時針、分針、秒針が順に重なっている。

もうひとつは、文字盤もじばんふうの表示の上を動くウソの時針、分針、秒針が、どれも同じ高さにある。そりや、液晶えきしやうパネル上なんだから、高さにちがいがあ**る**わけがない。奥行きおくゆきがなくて、べったんだ。

「時計ならべてなにやってんのよ。理科の宿題？」

と、ねえちゃんがちよつかいを出してきた。

ねえちゃんは、こつちが話しかけても相手にしてくれないくせに、<sup>⑤</sup>ほつといてほしいときに限って、話しかけてくる。

「ん、まあ、そんなようなもん」って、てきとうに答えると、

「じゃ、あたしのも持ってきてあげる」っていつて、めずらしく協力的な態度で自分の目覚まし時計を持ってきてくれた。

ねえちゃんの時計は、秒針が一秒おきにチツチと動く、うるさいタイプだ。しかも上に大きな鐘かねがふたつあって、毎朝けたたましい音がぼくの部屋まで聞こえてくる。

「これ、秒針うるさくない？」

「って聞くと、ねえちゃんはニマツと笑った。

「それがいいんだよ。」<sup>⑥</sup> 生きてるって感じでさ」

「え……」

「チツチツうるさいこの秒針さ、こう、一秒間ぐーっとためこんで、よいしょって動いてる感じがするじゃん。けど、あなたのはデジタルだし、キツチンのやつはスムーズ秒針とかいって、ずーっとなめらかに動いてるやつでしょ。たしかに静かだけど、なんかものたりないんだよ。がんばってる感がなくてさ」

ぼくはねえちゃんをまじまじと見つめた。

「秒針が、がんばってる……」

「そう。とくに今みたいに電池が切れそうだとね、上から6に向かって落ちていくときはいいけど、6からだんだん上がっていくとき、なんかふんばってる感じがあんのよ。電池切れでおなかペコペコ状態のモーターが、針を持ち上げるのに苦労してるっていうかさ」

ねえちゃんは自分の時計の秒針を指さした。

秒針は、「6時」の位置を過ぎて、今度はのぼり坂だ。

たしかに、さっきのチツチツチツという規則正しい音が、心なしか、おそくなったような気がしなくてもない。

「あ、ほんとだ、苦しそう」

「あなた、もしかして、<sup>⑦</sup> あたしのことバカにしてんでしょ」

「してないよ。なんか、そういう考えかたっておもしろいなあと思って」

「ふん、このデジタルぼうずめ。ようするに、電池切れってことよ。電池換え<sup>か</sup>として。ま、せいぜいがんばって⑧ 研究しなさいよ」  
ねえちゃんはそのいい残すと、冷蔵庫からプリンをとって、自分の部屋にさつさつとどつてしまった。

ぼくは、ねえちゃんをバカにしたつもりはない。それどころか、秒針の「がんばってる感」に、えらく感心していた。  
ねえちゃんって、おもしろいこというな。

⑨ なんか、大樹と似ている。

そういえば、ねえちゃんにはオモテとウラのちがいがぜんぜんない気がする。少なくとも、家のなかではいつも、えらそうで、ずうずうしくて、ちよつとおもしろいことをいうねえちゃんだ。

けど、あのねえちゃんも、外ではぼくの知らないオモテガワがあるのかな。

大樹にも、オモテとウラのちがいがない気がする。いつも同じだ。昔からずっと。

でも、もしかして、ぼくが知っている大樹は、オモテだけなのかもしれない。

(佐藤 まどか 著・佐藤 真紀子 絵『月にトンジル』一部改変)

問一 —— ①「あわててつけ加えた」とありますが、このときの「ぼく」を説明したものととして、最もふさわしいものを次の中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最後の公園集会を大切に思っていることを、大樹<sup>だいき</sup>も理解してくれたので喜んでいいる。

イ 大樹と公園で会える最後の日なので、なんとかさびしい気持ちをごまかそうとしている。

ウ 公園集会は今日で終わりだと思っっている、と大樹に誤解されたのではないかと心配している。

エ みんなで集まる最後の日なのに、大樹があまりにもいつも通りの様子<sup>ようす</sup>なので驚<sup>おどろ</sup>いている。

問一——②「デジタル時計ってきらい」とありますが、「デジタル時計」がきらいな理由として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 健康チェック機能のついた高価な時計よりも、なんの価値もない安物の時計のほうが自分にはちよどいいから。
- イ ホンモノの針がチツチツと動き、時計と分針、秒針の位置によって時間を分かりやすく知らせてくれるから。
- ウ ホンモノの針が動くときと生きているみたいでかわいいけれど、針みたいなのが動いてもかわいくはないから。
- エ 数字が表示されるものは前後の時間が見えにくく、時計の針が表示されるものはホンモノの針ではないから。

問二——③「最近の仮想現実ゲーム」とありますが、「ぼく」がこのとき「仮想現実ゲーム」のことを考えたのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア デジタル時計の針と仮想現実ゲームはウソのものではあるが、それぞれの良さがあると考えているから。
- イ デジタル時計はニセモノのように見えてしまうけれども、仮想現実ゲームはリアルなものだと感じているから。
- ウ デジタル時計の針とは違い、仮想現実ゲームはニセモノだけれど、なんども楽しめるものだと言いたいから。
- エ デジタル時計と同じように、リアルに見えるがホンモノではないものとして、仮想現実ゲームを思い浮かべたから。

問四——④「オモテとウラ」とありますが、どういうことを「オモテとウラ」と「ぼく」は考えていますか。本文を踏まえて五十  
字以上七十字以内で具体的に説明しなさい。

問五 ———⑤「ほつ」といってほしいとき」とありますが、このときの「ほく」を説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア アナログ表示にしたデジタル時計とアナログ時計の違いについて考えているので、一人になりたい。
- イ デジタル時計の針と、アナログ時計の針を観察するという宿題に取り組んでいるので、一人になりたい。
- ウ 最後の公園集会なのに、あっけなすぎる解散となってしまったことに傷ついているので、一人になりたい。
- エ 話しかけても相手にしてくれない「ねえちゃん」に仕返しをしてやりたいと思ったので、一人になりたい。

問六 ———⑥「生きてるって感じ」とありますが、ここでの「生きてる」とはどういうことですか。最もふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

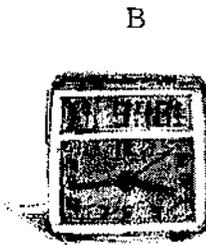
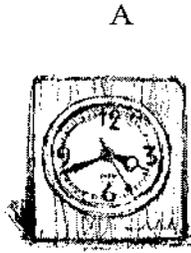
- ア 規則正しく一秒を刻めないけれども、秒針が6から上がっていくときにはのぼり坂をのぼる人のようなということ。
- イ 機械的に一秒を刻むのではなく、一秒の間に力をためたりふんばったりと秒針に意志が感じられるということ。
- ウ スムーズ秒針のようになめらかではなく、電池が切れそうな時計はおなかが空いた生き物のように見えるということ。
- エ デジタル時計の秒針とは違い、秒針を持ち上げるのも苦労しているので心臓のような音が聞こえるということ。

問七——⑦「あたしのことバカにしてんでしょ」とありますが、「ねえちゃん」がそう言ったのはなぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」があまりにも素直に「ねえちゃん」の言葉に同意したので、「ぼく」の言葉に真実味がなかったから。
- イ デジタル好きの「ぼく」が急に「ねえちゃん」の発言に納得したので、「ぼく」の言葉が信頼できなかったから。
- ウ 「ぼく」は秒針がおそくなった気がしたので、「ほんとは」と言ったのに、「ねえちゃん」はその言葉が気に入らなかつたから。

エ 「ねえちゃん」はおもしろい考え方をすると「ぼく」がとても感心していたので、「ねえちゃん」は照れ隠しをしたかったから。

問八——⑧「研究しなさいよ」とありますが、A、B、Cの時計に対する「ねえちゃん」の考え方として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。



- ア Aの時計は、チツチツと音がなく、生きている感じがしないので、なんだかおもしろくないと思っている。
- イ Bの時計は、時針と分針と秒針がどれも同じ高さになり、奥行きがなくて、べったんこなところが嫌だと思っている。
- ウ Bの時計は、秒針がずーつとなめらかに動いて音が出ないので、がんばっている感じがほしいと思っている。
- エ Cの時計は、電池が切れそうなきにはいつも以上に秒針がふんばり、生きているような感じがすると思っている。

問九——⑨「なんか、大樹だいじゅと似ている」とありますが、どのようなところが似ていると「ぼく」は考えていますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもちよつとおもしろいことをいつてくれて、オモテとウラのちがいがぜんぜんないと思つていたけれど、もしかしたら知らない一面があるのかもしれないところ。

イ デジタル時計にはないアナログ時計の魅力みりょくを知つていて、アナログ時計を大切に使つてるところや、オモテとウラのない優しいところ。

ウ アナログ時計の秒針に愛着あいじゃくを持つていて、生きものの魅力を語るように秒針の魅力を表現するところや、オモテとウラがないところ。

エ どんな時もオモテとウラがないところや、デジタル時計のニセモノの針がチツチツと動いてることが好きになれないところ。

問題は、ここまでです。



